第32回BELCA賞 ベストリフォーム部門受賞建築物選考評

千葉大学墨田サテライトキャンパス

所　在　地　：　東京都墨田区文花1-19-1
竣　工　年　：　1985年
改　修　年　：　2021年
用　　途　：　[改修前] 中小企業センター、図書館、立体駐車場
　　[改修後] 大学
建物所有者　：　墨田区
改修設計者　：　㈱久米設計、墨田区企画経営室（基本構想）、千葉大学キャンパス整備企画室（基本構想）、
　　栗生 明＋北川・上田総合計画株式会社（デザインアドバイザー）
改修施工者　：　坂田・東武谷内田建設共同企業体（建築）、一工・浦安建設共同企業体（空調・衛生）、
　　昭電・ヤマト建設共同企業体（電気）、日本エレベーター製造㈱（昇降機設備）

千葉大学墨田サテライトキャンパスにおいては、2017年3月に墨田区と千葉大学間で包括的連携協定が締結された。墨田区に大学キャンパスが設置されるのは初めてであり、1986年に開設された旧すみだ中小企業センターを、デザイン・建築・都市・ランドスケープの、「ものづくり」との親和性の高い分野の協働教育の場にコンバージョンした計画である。本施設を中心として北側の小学校跡地に集まる新たな大学施設と南側のあずま百樹園を含めた街区全体を「キャンパス」とすることで、まちと大学がシームレスにつながることを意図している。

既存建築は「く」の字型の建物の中心に耐震要素を集約させていたが、この構造コアを解体し、再配置している。これにより、1階では建物中心に三角形のくさび型のプラザが貫入され、建築から広場へ、広場からまちへ広がっていくことが可視化される。区民や学生が24時間自由に往来可能な通り抜け空間としたことは、運営面を含めて継続が期待される。

2階以上においては中心部がラウンジとなり、東西のスペースをつなげ、一体となった平面・空間を作り出している。RC壁の撤去、天井はスケルトンとすることで、様々なスタイルの授業や自作の場、企業との協働実験の場として、自由な枠組みをいかした空間づくりを行えることが現地審査でも確認できた。

また、中小企業センター時の技術指導室を、天井高さや搬入経路を活かして木工などのモデルショップへ、体育館は無柱の大空間として階段教室やアトリエスペースに、閉架書架部分に電気室をつくることで積載荷重を活かした計画とするなど、既存の空間・機能の特性を生かしたコンバージョンも行っており、既存ストック活用の好事例となっている。

遵法面では既存不適格であった高さ制限に抵触する部分を解消し、現行の建築基準法に適合させ、将来の改修、増築、用途変更の手続きが容易となるよう計画されている。

設備面では、学校施設への用途変更に伴い、フルスケルトン改修を実施し、電気スペースを新たに3階に構築している。天井のない、大きな空間利用を考慮して、ケーブルラックを縦横に配置させることで、LED照明の配置の自由度を確保しつつ、電源や情報通信もリノベーションによる変更の容易さを実現している。

省エネルギー性を考慮して、空調は、大空間全体ではなく居住区域を対象として、気流環境シミュレーションによる吹出口の位置の最適化を行い、併せて空調負荷の削減を実現するなど、環境配慮も行っている。

建設を通して行われたワークショップが母体となり、官民学が連携する「UDCすみだ」アーバン・デザイン・センターに発展したプロセスも高く評価された。